

## 6 月度学術講演会

日 時	6 月 1 6 日 ( 土 ) 午後 2 時
演 題	最新の慢性肝疾患治療とアンメットニーズ
講 師	大阪市立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学 教授 河田 則文 先生
出席者数	1 3 名
共 催	ギリアド・サイエンシズ株式会社
情報提供 担 当	ベムリディ錠 富永良子

### ・我が国の C 型慢性疾患と肝臓の実績

都道府県別死亡数：肝がん死亡者数は都市部に集中（大阪は近年 1 位が続いている）  
我が国における肝臓死亡数は HCV 由来による肝臓死亡数は減少しているものの未だ一番多い肝臓死の要因である

肝臓患者における 5 年生存率は男女とも他の臓器における癌と比較して高くないのが特徴

### ・大阪市大における DAA 治療成績

全 DAA 製剤において SVR 率は非常に高率になっており、また副作用も非常に少なくなっている。今後の治療においての問題点としては例数は少ないながらも残存する非著効例の存在

### ・HBV 慢性肝疾患の総論について

大阪市大における若年者における B 型慢性肝炎感染例における発癌症例の提示  
B 型慢性肝炎の自然経過について、NA 製剤投与による発癌抑制効果はあるのか、論文提示。HBs 抗原量を低下させることにより発癌抑制効果があることもご発表。

### ・TAF 臨床試験効果

NA 製剤に求められるもの。長期投与による DNA の陰性化率、安全性（特に腎機能）、HBs 抗原の低下効果、耐性の発現率の低さ  
TAF は長期投与による効果の高さ、安全性、耐性の発現率の低さが TDF との共同比較試験にて証明されている。

### ・肝発癌

HBV 関連発癌因子

高齢、男性、線維化進展、肝臓家族歴、人種、宿主遺伝子型

高 HBV-DNA 量、HBe 抗原陽性、遺伝子型：CP 変異型、preC 野生型、preS 欠失変異型  
NA 製剤でコントロールすることにより発癌を抑制することはできるが線維化進展例では発癌する。

### ・線維化の分子理解と治療

線維化の分子理解にはまだまだ未解決の事が多いが、星細胞、NK 細胞等様々な細胞が線維化の進展に関与している。今後線維化の改善に対し様々なポイントに作用する薬剤の開発が望まれる